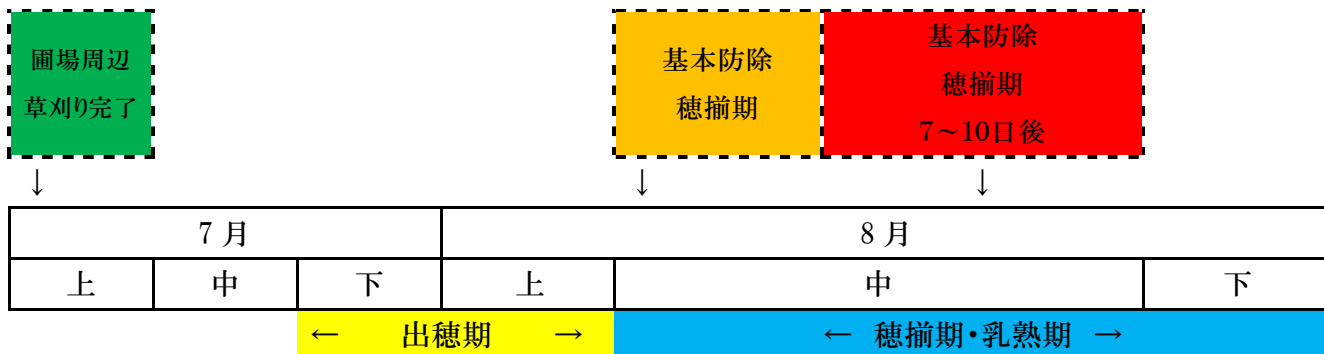


## §1 水稻・カメムシの種類と対策

本号がお手元に届くころには、北陸地方、東海地方ともに稲の出穂期から穂揃期になっている圃場も多いと思います。今号では、水稻における主要害虫であるカメムシの種類と対策について紹介させていただきます。水稻における害虫で一番問題になっているのは斑点米を発生させるカメムシになるかと思えます。水稻に被害を及ぼすカメムシは約35種類ほど確認されており、特にアカスジカスミカメなどのカスミカメ類、北陸地方に多いオオトゲシラホシカメムシ、大型のホソハリカメムシなどが斑点米を引き起こす主要なカメムシになります。カメムシ対策では、カメムシの密度を低くするために、普段から畦畔、圃場周辺の休耕田等の除草を行いカメムシの生息場所を減らすことが重要です。特に、水稻の出穂時期では、出穂の2週間前までに畦畔及び圃場周辺の除草作業を行って、カメムシを呼び込まないようにしてください。逆に、出穂直前の除草作業は、そこにいるカメムシを圃場へ呼び込んでしまうことになりますので注意してください。

下記はカメムシの基本防除時期の表になります。



カメムシの基本防除は穂揃期に1回と1回目散布の7~10日後になります。各県の防除所から発表されるカメムシの警報にも注意しましょう。

水稻においてカメムシに登録がある主な防除薬剤は以下の商品になります。

商品名	希釈倍率	使用時期	10aあたり 散布液量
キラップフロアブル	1000倍~2000倍	収穫14日前	60~200L
スタークルメイト液剤 10	1000倍	収穫7日前	60~150L
トレボン乳剤	2000倍	収穫14日前	60~150L
MR ジョーカーEW	2000倍	収穫14日前	60~150L
アルバリン粒剤	-	収穫7日前	3kg
キラップ粒剤	-	収穫14日前	3kg

この他にもカメムシの登録がある防除薬剤は色々ありますのでご担当者までお問い合わせください。



株式会社山正は、農薬・肥料・園芸ハウス・農業資材等の販売や、それに伴う農地・緑地・街路樹等のメンテナンス業務を通じ、地域農業や地域の環境緑地化への貢献を目指しています。



## § 2 2017 マルチローター散布実績速報まとまる

無人航空機利用技術指導指針に基づき、平成29年12月に報告された防除実績によると、全国で無人ヘリコプターによる農薬散布は、103万ヘクタール（うち水稲防除が89万、麦類6万、大豆7万ヘクタール）でした。そのうち、いわゆるドローンと呼ばれる機体での散布実績は、8299ヘクタール（水稲7000ha、麦類700ha、大豆500ha）でした。機体数は無人ヘリコプターで2775機、ドローンが695機となり、無人ヘリは2%減に対し、ドローンは前年比306%となり、ドローンの機体数が大幅に増えております。ドローンの認定機種は8メーカー13機種となり、販売実績はエンルート203機、丸山189機、DJI119機、クボタ35機、TEAD83機、東光鉄工65機でした。免許を取得したオペレーター認定者は、無人ヘリで10541人、ドローンで2759人となっており、今後ますます増加していくと思われまます。しかしながら、マルチローターでの散布に使用できる農薬は、「無人航空機による散布」の登録があるものしか使用できず、平成30年3月時点で271剤（水稲・麦197剤、豆類29剤、いも類11剤、野菜18剤、樹木類3剤、果樹類5剤、その他8剤）となっております。今後、マルチローターによる散布が増えていくには、機体自体の性能の向上だけでなく、散布に使用できる登録農薬が増えていくことは勿論、薬剤の重量を軽くしたり、単位面積当たりの散布投下量が少ない剤型の開発等が求められ、ドローンメーカーだけでなく、散布機メーカー、農薬メーカー、そして農水省の早急な取り組みが期待されます。

	面積(ヘクタール)		マルチ実績
	全体	水稲防除	
全国	1,033,162	889,631	8,299
岐阜	13,912	9,593	15
富山	28,693	24,162	543
愛知	9,873	3,608	184
三重	13,342	10,013	175
石川	26,097	23,782	382
福井	22,021	17,745	360
滋賀	13,391	10,791	0
京都	648	625	0

TEAD社、DJI社につきましては、山正において販売しております。TEAD社、DJI社のドローン免許取得についても引き続きおこなっておりますので、興味がある方は担当者にご相談ください。

目次 §1 水稲とカメムシの種類と対策

§2 2017年マルチローター散布実績速報まとまる

(第1営業部 氏永、菊池)